

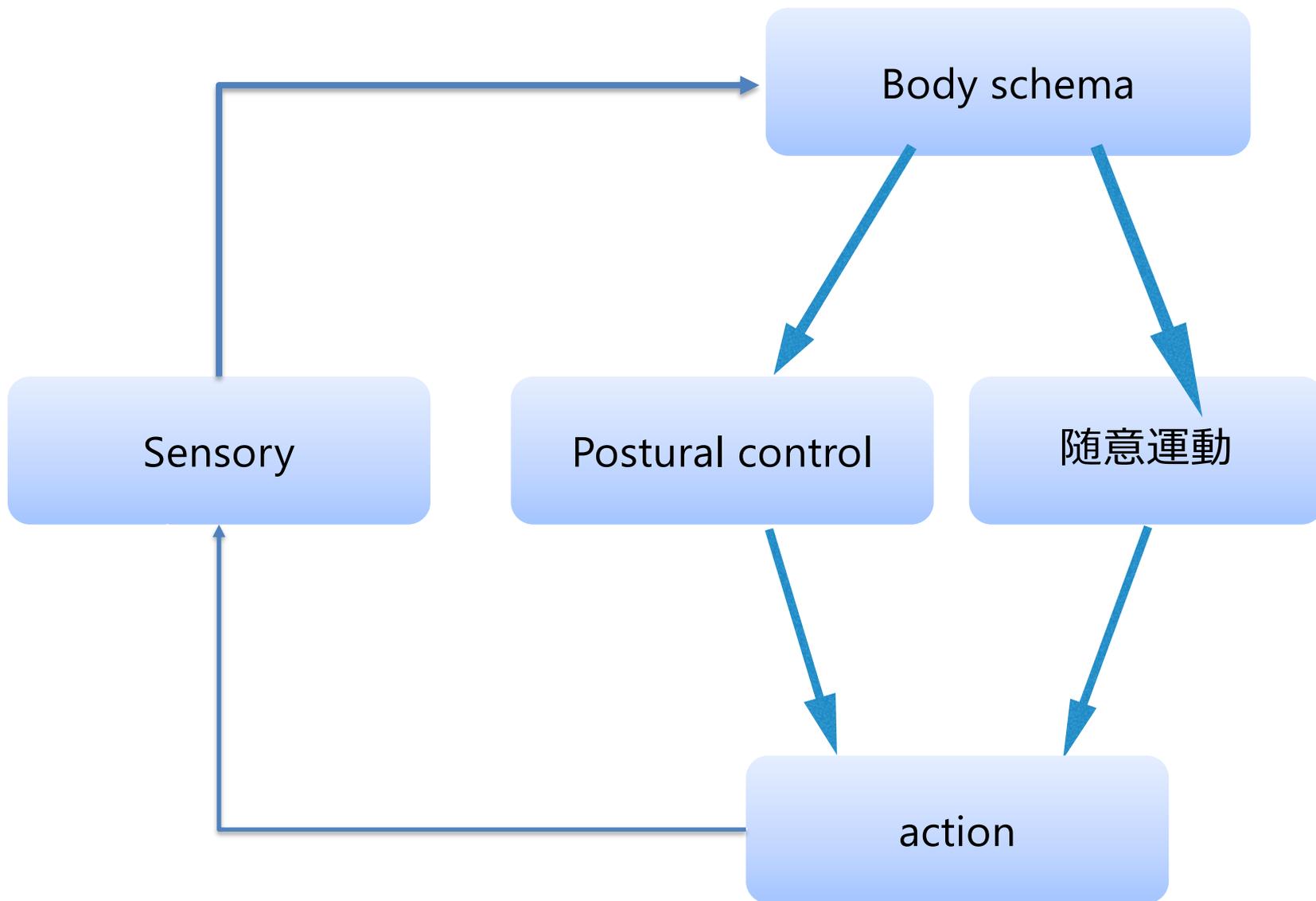
Why we touch ? How to touch ?

社会医療法人 大道会 森之宮病院
作業療法士 三浦 教一



Why we touch ?

- ✓ 治療はセラピストと患者との相互作用により、機能の改善が促される(Raine 2011)
- ✓ 治療は自然な運動を促すのではなくむしろ個人の運動の効率性を最大限に促すことを目的とする(Raine 2007)
- ✓ 治療の最終的な目的は、患者自身の内的参照システムを再教育して正確な求心性入力を提供し、患者に効率的で特別的な最良の機会を提供し、運動の選択肢を与えることである (Raine 2007)
- ✓ セラピストのハンドリングスキルは、患者に安定性と運動性を提供し、より効率的な運動パターンの達成へと導くことを目的とする (Raine 2007)

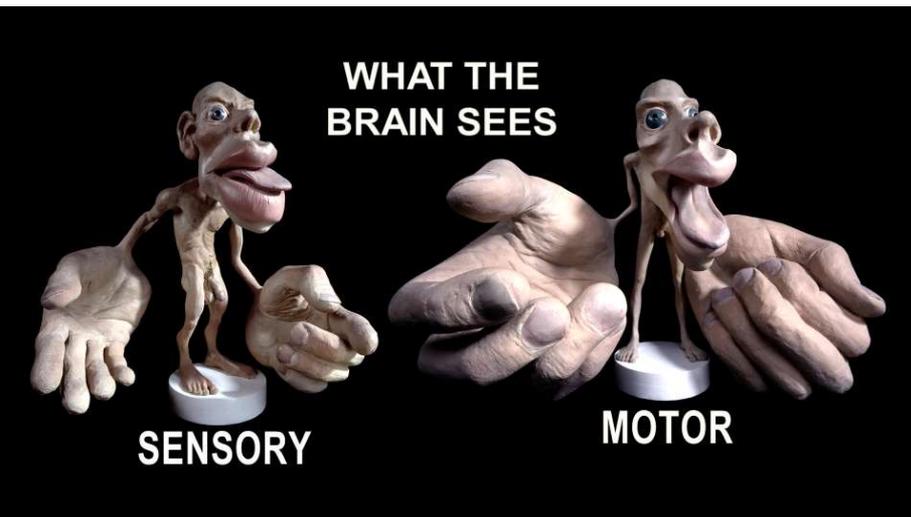


Body Schema (身体図式)

- 定義

- 個々が持つ自分自身について姿勢モデルであり、身体的位置や身体部位の関連について知覚することである
- 全ての動きの基礎となっており、身体の部位や関連を認識し、それは、何を (WHAT)、何処に (WHERE)、どのように (HOW)動かすかを知るものである。
(Zoltan et al 1991)

(M E Lynch in Lecture, AD course 2007)



触れるという事

✓ Touch may be one of the strongest direct influences on the patient , physically and psychologically /emotionally.

– 触れるということは患者に対して物理的、心理的、情動的に強力で直接的影響を及ぼす

✓ Through her hands and body language the therapist must impart empathy, respect, and care.

– 自分自身の手と身体的コミュニケーションを通して、セラピストは共感、尊敬、配慮を伝えなければならない。

How to touch ?

✓ Invite

セラピストは患者の神経筋システムをより適切に活性化できるように invite していく (Bente 2011)

✓ Shape

セラピストの手で治療ターゲットを明確に触ることが重要
(Koji Takahashi 2016)

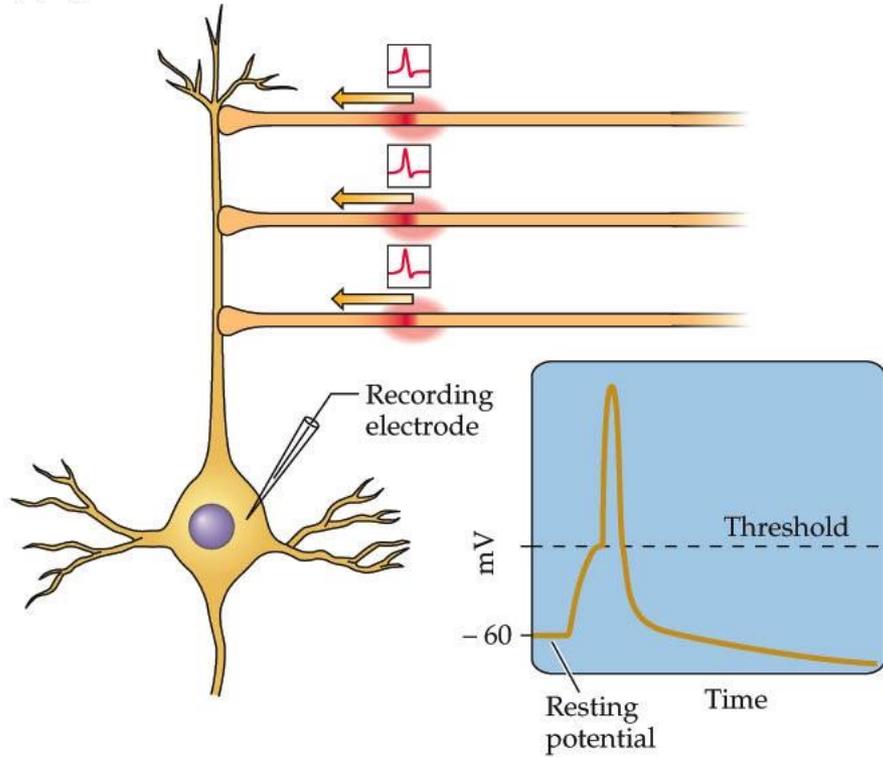
✓ Stability & mobility

手の中の安定性と運動性、患者の安定性と運動性、セラピスト自身の安定性と運動性（セラピストの姿勢も重要）

✓ Summation

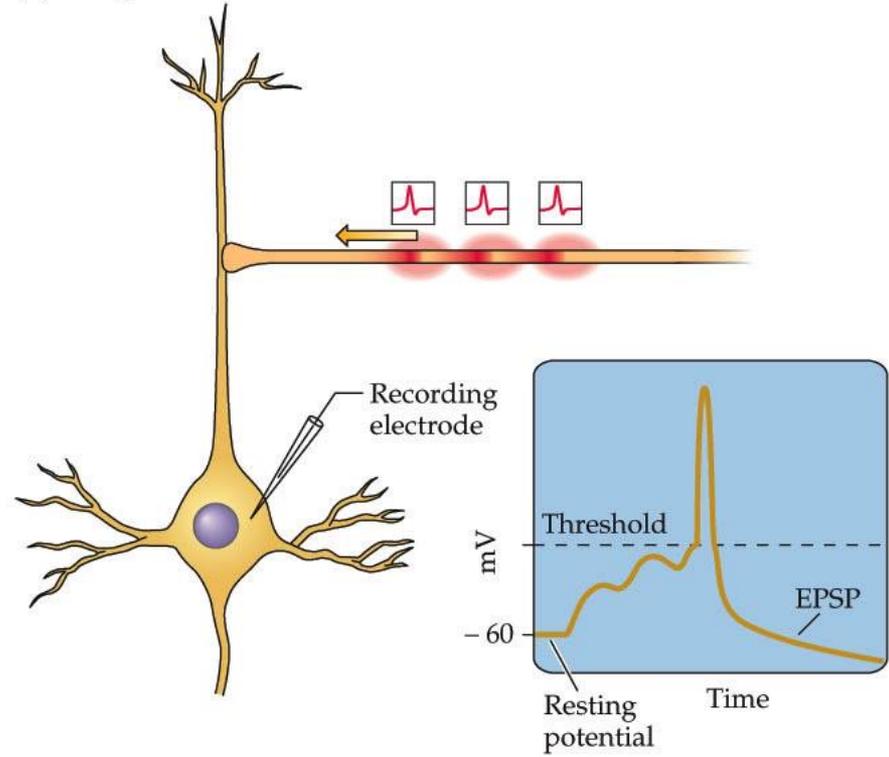
Summation (加重)

(a) Spatial summation



空間的加重

(b) Temporal summation



時間的加重

For handling

✓ 筋の起始と停止の理解

✓ 抗重力伸展活動のためにどの筋がどのように働く必要があるかの理解
⇒ これらを知らないとhandlingができない

✓ 正常な収縮の方向へhandlingする必要がある
⇒ 例えばハムストリングスは弛緩すると落ちて外側に流れる。そのため収縮させるには上にして外から中に入れていく必要がある。

Facilitation



Facilitationは“make it easy”(患者が動くことに対して楽だと感じるようにハンドリングすること), 治療の中では“make it possible”(感覚入力やアライメント修正によって可能となるようにすること), 実際はあらゆる出来事に動いていける必要条件を作ること

ベルタ・ボバース

Facilitation (make it easy)

make it possible



✓運動に最適な状態を準備する

make it necessary



✓活動的な場面への移行

Let it happen

✓目的はhands off

※ハンドリングの目的はセラピストの手から離れ、より活動的になれる可能性を提供することである

facilitation

- ✓ 動かされる人による最大のコントロールが得られるように、（治療者は）最小限のコントロールを用いることが必要

- 1) 多様で変化させうるキーポイントオブコントロールを用いる
- 2) 運動の間、最小限の支持を正しい部位に正しいときにつ用いる
- 3) 反応を待つ。そしてその質を見出す。

『COUSE NOTESよ

り』

※Hands off へつなげる。

- ✓ Repetition without repetition
運動制御の定着に反復は重要だが、毎回正確に同じ動きを意味するわけではない。「反復ではない反復」が重量 (Bernstein 1967)

Key points of control

- ✓ Are body segments, regions or areas that have their own activity at the same time they interact with the rest of the body
 - 自身の活動している身体部位・場所・エリアと同時に身体のほかの部分が相互作用しているか？
- ✓ The key areas are central, proximal and distal
 - キーエリアはセントラル。近位部、遠位部である
- ✓ They develop an independent bias to certain systems on a form function basis
 - それらは基本であるがシステムに独立した偏りを形成する

Gjelsvik 2008